ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029　北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp
夕張大教会
LINE 友達登録
お願いします

新年明けましておめでとうございます

今年も互いに親神様へ感謝の「日の寄進」に励み、陰徳を積ませて頂きまして、用木として心の喜びを深めて行きたいと存じます。

親神様の不思議なお働きは必ずあります。

私自身が希望を持って、おやさまがいつも先回りをしてお働き下さる事実にもたれて、出来る事から実行させて頂きます。

空振りも多いと思いますが、おたすけの機会を求めて、めげずに努力致しますので、それぞれの名称に於かれましても、神様の助け道場たる明るい教会へと邁進されます事を願っております。

どうぞ本年も宜しくお願い致します。

大教会長　藤田大和

お知らせ

大教会元旦祭　1月1日(月) 10時
大教会春季大祭　15日(月) 9時30分
大祭後、進級進学お願いづとめ
本部春季大祭　26日(金)
少年会年頭幹部会　27日(土)

各部各会あいさつ

昨年は新型コロナウイルスが五類に移行されたことにより、夕張大教会に繋がる皆様も初席者や修養科、教人資格講習会の受講をされありがたく思います。

また、本部で新たに「ようぼく講習会」日帰りコースと1泊2日コースが開催されるとのことです。機会がありましたら是非ご受講ください。

おさづけの理拝戴に際しては、昨年同様、大教会長様とご相談しながらの対応となります。おさづけの理拝戴希望の方は是非ご連絡ください。

教祖百四十年祭の年祭活動の二年目もよろしくお願い致します。

布教部　部長　高橋太志

明けましておめでとうございます。

昨年は、婦人会活動の上に、お勤め頂きありがとうございます。

昨年に引き続き、婦人会活動の成人目標、活動方針は、

成人目標
ひながたをたどり陽気ぐらしの台となりましょう

活動方針
教祖140年祭に向って育つ努力、育てる丹精に徹しよう
・元なる思召を伝え広めよう
・老いも若きもおたすけの喜びを味わおう

でございます。

私自身、婦人会長様の思いに少しでも沿わせて頂こうと身近な人に声をかけ、一歩でも育っていけるよう歩みを進めていきたいと思います。

また、四月の婦人会総会には、一人でも多くの方とおぢばへ帰らせて頂きたいと思いますので、本年もよろしくお願い致します。

婦人会　支部長　藤田美由紀

昨年は三年振りに分会総会、本

（次ページへ続く）

部総会、あらきとうりよう入門塾等、対面での行事を行う事が出来ました。コロナ前の勢いにはなかなか戻りにくいとは思いますが、その中でも青年会活動に参加してくれた会員達の勇んだ顔、笑い声を感じることが出来、得難い時間を過ごすことが出来ました。また、これからの若い会員達の活躍も見られ、今後益々盛り上がっていく事が期待出来る一年となりました。

三年千日の二年目、より多くの会員で、周りの人達と共に笑顔になれる活動を努めてまいりますので、どうぞ今年も青年会をよろしくお願い致します。

青年会　委員長　藤﨑　勇

明けましておめでとうございます。昨年は4年ぶりにこどもおぢばがえりが開催され、夕張団の団体もおぢばに帰り、喜びを頂きました。また、少年会総会では、以前のように顔を合わせて、十二下りのおつとめを共につとめることができました。皆さんのご協力のおかげで、年祭活動の1年目、大きな動き出しができました、ありがとうございます。

大人も子供も、もっと大勢の人たちがおぢばに溢れることを楽しみに本年もつとめさせて頂きます。

少年会　団長　藤田　豊

今年も宜しくお願い致します。

学生会は今年1人でも多くの学生さんがおぢばへ帰るお手伝いをさせて頂きたいと、委員長と相談しながら、少しづつ前へ進ませて頂きたいと考えております。

中々忙しく都合のつきづらい年頃だとは思いますが、だからこそ、おぢばへ帰る尊さを感じられると思います。

皆様の協力あっての事だと思いますので、今年もどうぞ宜しくお願い致します。

学生担当委員会　委員長　富山知一

11月25日 回廊ひのきしん

婦人会　立教186年第2回 母親講座開催

11月14日に母親講座が開催された。母親講座は今後、名称が新しくなり『みちのだい育み塾』に代わると、支部長からのお話があり、その後、参加者15名を2班に分け、ねりあいの時間を持たせて頂いた。テーマは母親として信仰者として、親神様の御守護をしっかり子どもに伝えられているか、そして伝える為にどのようなことを実践しているかなど、産み育ての徳分を頂く婦人が日常に感じている事や子育てに付いてなど意見が交わされ、参加者の皆さんが改めて親神様のご守護を身近に感じさせて頂く時間となった。

（支部長より「みちのだい育み塾」の名称変更については、各所に連絡してあります）

女子青年　こかん様につづく会

11月23日にこかん様につづく会を開催し、女子青年3名、担当者含め計7名が参加致しました。

当日は少年会、冬のお楽しみ会があったので、午前中は少年会のゲームの担当を受け持ちました。

午後1時から奥様のお手に合わせておつとめをし、その後、お話を聞かせて頂きました。富山知理女子青年委員長、大橋寧々副委員長は、就任後初めての、こかん様につづく会で、会の意味合いなどを聞かせて頂いた後、来年の計画を話し合いました。

愛知 ▷▷▷ 夕張

高橋悟志の 布教日誌 vol.8

11月に入り、めっきり気温が下がりました。今年もあと少しとなり、布教の家生活も終わりが見えてきました。今月は愛知教区の「にをいがけドキドキ体験」に参加しました。にをいがけに普段、歩けていない方や全く歩いたことのない方向けで、寮生が参加者の方と午前中一緒に歩き、午後には練り合いをするという企画でした。10月の大祭も終わり、少し気の抜けるような時期であったので、気持ちを新たにすることができました。普段にをいがけに歩いていない人と歩くということはあまり経験しないので、とてもいい勉強になりました。

11月26日には他の寮生の帰参の付き添いで本部月次祭に参拝させて頂きました。おぢばでは色んな人に会えて、とても楽しかったです。今度は自分の通い先の方と行かせてもらえるように頑張りたいと思います。

また今月は布教の家卒業生でもある藤田亮平大先生がわざわざ愛知まで激励に来てくださり、また一層勇むことができました。

今月もまた勇んで歩かせていただきます。

十一月月次祭の模様

11月の北海道は例年よりも早く雪模様になる地域が多く、祭典前には大教会も一面白一色となっていた。11月の月次祭は新穀感謝祭もあり、道内各地より、献米が各教会、信者様から届き、上段奥に高々と積み上げられていた。

迎えた15日の朝は、雪は小康状態となり、過ごしやすい小春日和となった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。十二下りが終わって、すぐに上段が復旧され、引き続いて秋季霊大祭が大教会長を祭主に執り行われた。この度の御霊大祭では藤﨑和子・旭都分教会四代会長夫人、三嶋信・北八洲分教会二代会長、小野寺梅子・祝豊分教会三代会長と直轄信者・藤田ツル姉の四柱が新たに合祀され、遺族・関係者が霊様の前に参進して礼拝した。

講話には**藤﨑勇青年会委員長**が壇上に上がり、自身の通って来た道から、おさづけの有難さ、その御守護について熱弁した。また7月に出直した祖母について触れ、「一年前に危篤になった時、父である会長が『勇におさづけを百回、ばあちゃんに取り次がせて下さい』と神様にお願いしていたそうです。出直すまでの一年間、教会に居る時は朝夕のおつとめの後に、必ずおさづけを取り次がせて頂きました。改めて数えると、百回を優に超えるだけ、取り次がせて頂きました。また、僕だけでなく、兄弟家族信者、それぞれのお取次ぎ、またお願い込みの真実があって、ばあちゃんは徐々に徐々に弱って、安らかな出直しを迎える事が出来たのだと思います。鮮やかな身上のたすかりだけが、御守護ではない。これもまた、神様の有難い御守護なのだ、と祖母の出直しを通して知る事が出来ました」と語った。

最後に残り十日に迫った本部青年会総会について「残り少ない期間ですが、夕張分会からも精いっぱい声掛けをさせてもらいますので、皆様からもお力添えをどうかお願い致します」と頭を下げた。

大教会長はあいさつで「11月は新穀感謝祭と御霊大祭を執り行わせて頂いています。他の大教会ではこのようにやっている所をあまり聞かないですね。御霊大祭は夕張大教会の創設以来ですから、伝統で、ご本部のお許しを頂いて、吉例に則って曾祖父の時とも変わらず勤めました。神社では新嘗祭が行われるこの時期に、作物が豊作であった感謝、そしてお世話になったご先祖様方への感謝ですね。

また、先程委員長からも話がありましたが、今月25日には本部にて青年会総会が開催されます。これからの夕張のエンジンとして動いていく若者達です、どうぞ応援してあげて下さい」と話された。

十二月月次祭の模様

今年の12月は、例年より少し早く、しっかりとした雪が道内に降り、各地で早くも雪かきに追われる様子が見えた。祭典の数日前には、岩見沢含め道央地方にもまとまった雪が降り、大教会も雪に覆われ、本格的な冬の到来を感じさせた。

迎えた15日、雪は小康状態となり、道内各地より続々と参拝者が集った。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。祭文にて大教会長は、この一年の御礼を親神様に申し上げ、来る三年千日の二年目も、変わらぬ心で旬の役目を果たすことを誓った。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。おつとめの熱気に反応してか、幾度も神殿の屋根からゴゴゴと大きな音を立てて、神殿の両脇に落雪があった。

講話には**千葉真理・北弘分教会長**が立ち、流産のふしを乗り越えて、新たに二人の子供を授かった話をして、参拝場は大きな拍手に包まれた。また「私たち夫婦がこの数年で学ばせていただいたのは、もたれて通ることの大切さであります。私自身もそうですが、人は諦めたり、信仰していたとしても本当にこれに意味があるのか、と疑ってしまったりします。しかし、その中に少しでも、神様にもたれて通ることができたとすれば、神様はその分、その倍の喜びを返してくれる、そのように学ばせていただきました。今後はまた娘の障害に向き合わなければいけない、そんな場面も出てくると思いますが、その時々で神様にもたれながら通らせていただきたいな、とそのように思うのであります」と語った。

大教会長はあいさつにて、「この三年間の私なりの大教会の目標に掲げさせて頂いた通りですが、感謝は言葉で伝え合いたい、と存じます。世話人先生がいらっしゃった時に、僕と妻と三人で夕食を頂いたんですが、その時に世話人先生は『会長さん、夫婦の以心伝心なんて無いぞ。感謝は言葉で言わないと分からん。ちゃんと言いなさい』と仰いました。それを聞いて、改めて肝に銘じました。いつもありがとうございます、というのは夕張に出入りする人の口癖のように思います。こんな素晴らしい口癖はないですね。これからも感謝を言葉で表していけば、来年も良い年になって、親神様、教祖が生き生きと私達を使って下さる教会に近付いていけると思います。本年も一年間、誠にありがとうございました」と話された。

祭典終了後には役員会議が開かれ、来年の詰所運営、教養掛についての話し合いが持たれた。

講話の全内容、他記事の写真は以下のQRコードよりご覧いただけます

秋季大祭　神殿講話

夕張大教会世話人　**松田 理治** 先生
まつだ　まさはる

（前号より続き）

おつとめを勤める

続いて4番目、おつとめを勤める、ということについての海外の実例を申し上げたいと思います。よろづたすけのおつとめ、かんろだいを囲んで勤められますけれども、各教会、この夕張大教会でもそうですが、その理を受けて勤めることが許されています。今日の祭文にもありましたけれども、その理を受けて勤めるとはどういう意味なのか。言い換えれば、おぢばで勤められるかぐらづとめと、同様の陽気さを持って、各教会でもおつとめを勤めるならば、親神様はその真実を十分に受け取ってくださって、お働きくださることだ、という意味なんだろうと私は思っています。

当たり前の話ですが、今日のおつとめは、我々日本語で勤めました。教祖は日本語で教えられたわけです。現時点で、おつとめがその国の言語で勤められているのは、この日本を除いて韓国だけなんです。韓国では韓国語でおつとめがなされています。他の国では、日本語で勤められています。日本語が分からなくても、日本語で勤めてくださっています。

なぜ韓国だけなのか、と言うと、理由はいくつもあるんですが、大きくは二つです。一つは戦前、第二次世界大戦までは、朝鮮半島にたくさんの日本人布教師がいました。けれども終戦という事情によって、全て引き上げを余儀なくされたので、残された韓国の信者さんたちは、韓国語で自分たちの信仰を守らなければならなかった、ということですね。実際にその当時の韓国の教友たちは、日本語でおつとめを習いましたけれども、日本人が全部いなくなって、じゃあこの信仰を守っていこうと思えば、なんとかして韓国語にそれを変えて、やらざるを得なかった、ということなんです。

あともう一つは、日本語と韓国語は文法的に近いので、日本語と同じような語順で韓国語も訳せる、ということなんです。それが韓国語でおつとめがなされている、という大きな理由のもう一つなんです。ところが、日本語と韓国語が近いから、同じような語順でできると言っても、他の言語ではそうはいきません。海外のその他の国・地域の教友は、日本語が分かる分からないに関わらず、日本語でおつとめを勤める、ということになっています。

実際にこれはなかなか難しい問題で、例えばアメリカとかハワイとかブラジルとか、そういう国々では、まずは日本人や日系人の社会の中で、天理教が伸びていきましたから、これを非日系の人たちにその輪を広げていくことになると、やはりアメリカ・ハワイでは英語、ブラジルではポルトガル語でおつとめを勤められるようにならなければならない、という考え方をする人もいれば、それに対して慎重に考える人もいるわけです。

慎重に考える人の理由というものは、本当に日本語と同じような語順で訳せるのかということです。例えば『あしきをはらうてたすけたまへ』と我々やってますけども、これを今現在の英語の訳でやると、「sweeping away evils,please save us」と言うんですが、これを日本語に逆訳して言うと、『払います、あしきを』となる。ということは、合掌する時に、払いますということを英語で言って、払っている時にあしきを、と言う、そういうことになってしまう。ということは語順が合わない、つまり手と口が一致しないわけですね。例えば『よろづよの　せかいいちれつみはらせど』とやりますけれども、それを英語の語順で言うと「looking all of the world」と始まるから、よろづよの手の時に、英語では見晴らす、ということを言ってるわけなんです。だから語順が合わない。果たして日本語と同じような語順で、英語でできるのか、ということで慎重論を唱える人が多いわけです。

そうかと思えば、フランスに唯一、桜井の系統で、ボルドー教会があります。ワインで有名なところです。そこの今の会長、ジャン・ポール・シュードルという方は、生粋のフランス人です。日本語が全然できない。でも、その人は日本語ができないにも拘わらず、教祖がおっしゃったことを、そのままやったらいいじゃないか、教祖が『あしきを』という風に、日本語で言ったんだったら、私たちフランス人も『あしきを』と、そのままやったらいいじゃないか、という人もいるわけですね。

天理教で最も大事なものである、このおつとめ。最も大事なものであるからこそ、いろんな意見があるんだろうな、という風に思っています。私が学生の頃、あるアメリカの教会長さんが、このように言ってくれたんですね。「松田君、あのね、私は教祖がおつとめを教えてくださった、ということは何よりもあ

りがたい、と思ってるんですよ」というように、おっしゃってくれた。私は学生の時分でしたから、物事を斜めに見るようなことが多くて、海外伝道など所詮絵空事やな、と思ってた時期があったんです。けれども、その先生がおっしゃってくださった言葉で、もう一気に心が洗われた気持ちになったのを覚えてるんです。今もなお、先生はどういう意味でそんなことをおっしゃったのかな、というように自問してるところなんです。

　アフリカには、天理教の教会が一つあります。コンゴ共和国という国の、首都ブラザビルというところに、コンゴブラザビル教会があります。先月9月26日のお運びを持って、マテラマ・ギィ・ラウールという方が六代会長の任命のお許しをいただきました。天理時報の10月11日号なんですが、それに彼のことが詳しく載ってますので、それをご覧いただければと思います。そのコンゴブラザビル教会の前会長が、2年前の10月1日に出直されたんですね。ですので、新しい会長が立つまで、2年かかりました。その間、会長の候補となるような人は、何人かいたんです。いろんな相談の結果、ギィという男性が、適任者と推されて会長候補となって、今年3月に奥さんと共におぢば帰りされて、半年の研修を受けられました。

　4月に教人資格講習会、5月に教会長資格検定講習会に行かれて、6月、7月、8月と、修養科の一期講師を務められました。当然フランス語クラスです。一期講師を務め切り、それを以て我々が、これやったら大丈夫や、これやったら間違いない、というので9月のお運びで任命のお許しを願ったわけなんです。

　この新会長のギィ氏は、日本語が全然できません。信仰も初代です。彼ら夫婦はこの半年の研修の間、ほぼ毎日、本部の朝夕のおつとめに参拝していました。特に朝においては、教祖殿のまなびまでしっかり勤めてから帰ります。大体において合殿で勤めることが多かったんですが、そこにいる日本人の誰よりも、正確に歌を歌って、お手を振っていました。

　彼ら夫婦のみならず、コンゴブラザビル教会には、日本語は全然できないけれども、鳴物とかお手振りをほぼ完璧にできる人がたくさんいます。当然、おつとめの地歌は日本語です。

　このコンゴという国は、他のアフリカ諸国の例に漏れず、非常に貧しい国なんです。過去には内戦とか政情不安で、多くの人が苛（さいな）まれたんですね。実際、コンゴブラザビル教会の敷地を挟んで、銃撃戦もあったという、そういう環境なんです。食料の自給率も30％しかない。日本人の平均寿命は、男性で81歳くらいですね。女性になると87歳ぐらいになります。コンゴの平均寿命は62歳なんです。日本と20年も違うんです。実際に、この前会長が出直されたのは、60歳でした。ギィ新会長のお父さんも、52歳で亡くなっています。

　そんな環境の中で暮らしているコンゴ人教友の考えるおつとめのありがたさと、私たちが考えるおつとめのありがたさというものは、これ同じなのか。あるいは次元の違うものなのだろうか、と考えることがあるんです。

　この新しい会長の特筆すべきことというのは、他にもあります。彼はコンゴブラザビル教会の会長になるまでは、ブラザビルから500㎞ほど離れたところにある、布教所の所長をしてました。今もしてるんですけれども、この布教所の神殿普請を、海外部とか教会の援助を受けずに、自分たち布教所の者だけの力でやる、ということを実はしています。これはコンゴにおいては、大変なことなんです。自分たちがおつとめを勤めるところは、自分たちで整えなければならない、という信念からです。鳴物とかお手振りとか、そういうことだけではなくて、自分たちのおつとめをする所も、そのように大事に考えるというところをもって、彼が会長に推されたんじゃないかな、と私は思っているんです。

おさづけを取り次ぐ

　最後の、おさづけを取り次ぐ、ということについては、特に詳しい説明はいらないのではないかな、と思います。なぜかというと、おさづけの理を拝戴した我々よふぼくは、等しくおさづけを取り次ぐ立場にあります。別席の話に、このおさづけの理に重い軽いの理はない、と教えられています。あの人のおさづけは効く、あの人のおさづけは効かない、とそういうものは、そもそもないはずです。そうであるとともに、国内においても海外においても、おさづけの効能というものが変わることも、もちろんありません。

　ここでも先ほど例に出した、コンゴブラザビル教会の新会長、ギィ会長の話をしますけれども、天理時報には、このような彼の談話があるんです。『4年前、新型コロナウイルス感染拡大はコンゴにも多大な影響を及ぼした。「病院に行くと、コロナに罹ってしまう」という噂が流れ、（ギィ氏が所長を務める）ポワント・ノワール布教所には、たすかりを願う人々が連日詰めかけた。当時、未知のウイルスに不安を抱いていたギィさんは、布教所を訪れる人々への対応に悩んだ。しかし「教祖の道具衆として、おさづけを取り次がせていただかなければという使命感に駆られた」。他宗教の施設が閉鎖されるなか、布教所では毎日おつとめを勤め、たすかりを願う人々におさづけの取り次ぎを続けた。「たとえ自分が病に倒れることがあったとしても、親神様にもたれきる思いで、教祖の手足として働くことを誓って、おたすけに奔走した」と振り返る。』というように、天理時報では書かれているわけなんです。

　これによると、日本とコンゴでは、状況が全く逆だったってことが分かります。我々日本人は、コロナ禍の時は、ちょっと体調を崩したり、あるいは陽性と思しき人に接触したり、というようなことがあれば、すぐ病院に行きました。ところが、コンゴでは、病院を信用してない。病院に行ったら、コロナに罹る、むしろその布教所に救いを求める人が、殺到したわけです。

　当時、布教所のよふぼく、おさづけを取り次げる人は、ギィ氏と、その奥さんしかいませんでしたから、当人たちは、まだまだ事態が分かってない病気に、恐怖心を抱いていたであろうことは、想像に難くありません。それに構わず、自分がコロナにかかるようなことがあっても、教祖の道具衆として働くことを誓って、寄り来る人々におさづけの取り次

ぎを、ずっと続けたのです。だから、この3年以上に及んだコロナ禍において、我々天理教の仲間内でも、彼ら夫妻が一番のおたすけ人であったのかも分かりません。

コンゴブラザビル教会の新会長のギィさんは、今もなお、その布教所長を兼務しています。なぜかと言うと、会長になりましたが、前までやってた布教所の、所属のよふぼくは彼らしかいないんです。規定上、布教所長になるには、よふぼくにならなければいけません。次の布教所長は、実は決まってるんです。ですが、よふぼくではないので、布教所長になることができないんです。コンゴのようなところから、おぢば帰りをするということは、これはもうなかなか容易なことではありません。一つは金銭的な事情、もう一つはビザを発給してくれるかどうか、ということです。コンゴの教友がおぢば帰りできたとしても、大多数はもう、一生に一度なんです。

ですので、ギィ新会長は今回を除くと、まだ2回しかしてなかった。その奥さんはまだ1回しかしてなかったんです。今回、会長になるというので、2人に研修を受けさせるために、おぢばに呼びましたけれども、それがなかったら、彼らがおぢば帰りする機会が、これからあったのかどうかも分からないんです。

次に布教所長になる人は決まっている、と申しましたけれども、この人も実は数年前に、おぢば帰りをしています。修養科のフランス語クラスも修了してます。でもその時は、真柱様のご身上で、おさづけの理が拝戴できませんでした。かと言って、コンゴから簡単におぢば帰りすることができません。でも今月の今日15日に、この者がコンゴを発っておぢばに帰ってくることができるようになりました。この秋季大祭前後に、おさづけの理を拝戴できるのではないかな、と思います。それをもって、コンゴに戻り、布教所長交代という動きになるわけです。コンゴに帰った暁には、布教所長として、新しい会長を支えてくれる立場になるんじゃないかな、と思っています。

我々はおさづけの理を拝戴してます。また当然ですけれども、北海道からおぢば帰りをする、ということも、容易ではありません。けれども海外には、こういう人たちもいるんだ、一生に一度しか帰れない人もいるんだ、そういう人たちはしっかり自分たちの住む土地ところで、やってくださってるんだということを、ご理解いただけたらと考えます。

このコンゴブラザビル教会の新会長の就任奉告祭は、来月11日に行われます。私はそれに行くことになっています。コンゴへ行くのは2回目なんですね。1回目は去年の5月に行ったんです。その時は、会長不在の状態でしたので、その事情整理のために行きました。事情と言っても、我々でも考えのつかないようなことが起こってくるんです。例えば、前会長が出直して、海外部のフランス語関係者に、不穏なメールが入ってくるんです、たくさん。俺を会長にしろ、この者がいいんじゃないか、等々。アフリカの世界で、会長になるということによって、凄い実権が伴うものなのです。それを収めるため、いろんなルールを作るために、私は前回行ったのです。今回は会長就任という、喜ばしい節で行かせていただけること、非常に喜んでおります。ありがたい姿を、この旬に見せていただいてるな、というような感じがしております。

ちなみに、コンゴまで行こうと思ったら、どのくらい時間がかかると思われますか。いろんなルートがありますが、パリを経由します。関西からパリに行って、パリからコンゴに飛ぶ。今ですと、関西からパリまで12、3時間。パリからコンゴまで7時間。大体、全部で合せて20時間です。前は関西からパリまで、10時間でした。今はウクライナの上空を迂回するので、それだけ長い時間かかっています。これは余談でありますけども。

以上、諭達にお示し頂いている、5つの実践項目について、海外の実例を挙げてお話をしました。冒頭で申しましたように、それぞれ国・地域の実情に合わせて、天理教の活動を進める必要がありますけれども、おたすけということについては、日本も海外も変わりはありません。冒頭でも申しましたが、この三年千日という期間を、仕切って務めてもらいたい。特に力を入れて務めてもらいたい、というのが、諭達に込められた真柱様の思いです。

ですので、この三年千日以外の期間は、常日頃の時、つまり常時であるとすれば、今のこの三年千日は、非常時である、ということができると思います。非常時というと、何か緊急事態が起こってるような、そんな感覚になりますけど、私はそう捉えていいと思ってます。

国内国外を問わず、私たちよふぼくは、日々真剣に、この道を通っています。この旬において、自分の決めたことをしっかり実行できている、という人は、これからも気を緩めずに、お進みいただきたいと思いますし、また自分は、その目標に達していない、と感じている人は、その遅れを取り戻すべく、これからもにをいがけ活動、おたすけ活動にお励みいただきたい、ということをお願いして、今日の講話を終えたいと思います。

世界中で頑張ってる人たち、たくさんいます。しっかりと自分の与えられたことを、それぞれ持ち場立場で共々にしっかりやる、ということをお誓い申し上げて、終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

（文責　編集部）

本部青年会総会

それぞれの心に深く残る　感動の一日

去る 11 月 25 日、本部中庭にて青年会総会が執行された。コロナ以降では初めての制限なしの開催となり、夕張分会からは 24 名の青年会員が参加、また会員の家族等を含めると 37 名がおぢばに集まった。

今回の総会では、より多くの会員に参加してもらうべく、例年の 10 月 27 日から日をずらし、土曜日に総会、日曜日に月次祭参拝が出来るよう、初めての 11 月開催となった。また、来てくれた会員に喜んで帰ってもらえるよう、フットサル大会、お話フェスティバル、子連れの会員向けのキッズパーク等の催し物が用意され、さらに 25 日夜には東西泉水広場にて後夜祭が開催された。

夕張分会でもフットサル大会に夕張 FC としてエントリー、また分会として初となる後夜祭での模擬店出店を決めた。準備の為に主要な委員は早くからおぢばへ帰って、会員たちの受け入れに万全を期した。

大半の会員が詰所へ到着した 24 日夜には、大教会長を囲んで懇親会が開かれ、鍋をつつきながら会員それぞれの仲を深め、また翌日の総会への無事参加と、フットサル大会の健闘、模擬店の成功を願って、賑やかに過ごした。

迎えた 25 日、朝より詰所に集合し、分会旗を先頭に徒歩にて本部へ向かった。本部中庭は青年会員で埋め尽くされ、久々の賑わいに一同感慨深げであった。総会式では、中山大亮・青年会長様のあいさつをしっかり心に納め、真柱様のメッセージを拝聴して、改めてあらきとうりようとしてどのようにこの三年千日を通るべきか、それぞれが決意を新たにした。中庭一杯の青年会員で唱和する天理教青年会歌は格別で、感激しきりの総会であった。

午後からフットサル大会が天理大学の体育館で行われた。チームの大半は顔も合わせた事のない即席チームであったが、あにはからんや若手中心の夕張 FC は快進撃を続け、圧倒的な成績で予選リーグを突破、決勝トーナメントに進出した。準決勝で惜しくも敗退となり優勝の夢は潰えたが、3 位決定戦を勝利し、全教で 3 位という快挙を成し遂げた。

フットサル組の快挙の裏では、詰所にて模擬店出店に向けた準備が急ピッチで進められていた。開店までに準備できるかギリギリの状態だったが、調理未経験の会員も包丁やフライパンを握って、会員の奥さんも巻き込んで、分会総出で何とか間に合わせた。

本部夕づとめ終了後、青年会総会の後夜祭がスタート。夕張分会は西泉水広場にて、豚丼を販売した。誰一人経験が無い中での出店であり、動き方も分からない中でのスタートだったが、スタッフそれぞれがフォローしあってポジションを微調整しながら動き、30 分もするとスムーズな提供が出来るようになっていた。夕張分会の豚丼は想像以上に人気となり、開店直後より行列が途切れる事はなく、約 1 時間半にて見事、完売となった。一生懸命働いたスタッフの達成感は言うまでもなく、皆笑顔で後夜祭終了を告げる花火を見上げていた。

コロナ前に総会を経験していた諸先輩方は多く卒業し、一からのスタートといっていいほどだった。その中でノウハウの無い模擬店出店は、かなりの挑戦だったと思う。それでも、沢山の人が分会の思いに賛同し、協力してくれたお陰で、大きな成果を挙げる事が出来た。またフットサルはエントリー当初メンバーが集まらず、辞退も考えたが、

若い会員達が次々と名乗りを上げて、最終的には 12 名が参加してくれた。更に、今回の総会前後で、初席 1 名、中席 1 名、おさづけ拝戴 1 名、をびや許し 2 件と、会員や会員家族がそれぞれの信仰を深める機会を得た。非常に実りの多い総会であった。

立教 187 年の本部青年会総会は 10 月 27 日（日）と決定しました。総会には多くの出会い、気付き、そして喜びが待っています。次回はより多くの夕張青年で、おぢばを賑わせましょう！

（委員長　藤﨑　勇）

少年会 冬のお楽しみ会
体育館でスポーツゲーム

11月23日、この時期にしてはあたたかい気候に恵まれて、令和元年以来4年ぶりに冬のお楽しみ会が開催され、少年会員32名、育成会員28名、計60名が参加した。久しぶりの開催となったこの日は、大教会に集合後、なんと岩見沢市総合体育館へ会場をうつし、お楽しみ行事が行われた。体育館では、趣向をこらした数々のゲームが散りばめられ、跳んだり、走ったり、広大な空間を思う存分活用して、笑顔いっぱいに楽しい時間を過ごした。またこの日は、富山知理女子青年委員長（栗山）を始め、大橋寧々女子青年副委員長（由仁）、富山朱理さん（栗山）がスタッフとして参加し、一生懸命にお世話取りをするその姿は、とても初々しく喜ばしいことであった。その後、大教会で、おいしい昼食をいただいた後は、一年間お世話になった感謝を込めて、大教会神殿や回廊などの清掃ひのきしんを行った。そして、みんな楽しみビンゴ大会。司会の竹田和人さん（馬追）が、上手に子どもたちを盛り上げて、会場は熱気と笑顔で溢れ、景品と楽しいひとときの思い出をお土産に、それぞれの家路についた。

（記　岩佐）

夕張団鼓笛隊
練習スタート

コロナ禍の影響などにより自粛していた鼓笛活動が、渡部康太さん（清真布）を新たな実務担当者とし、同年代のスタッフがねりあいを重ねて、12月16日、ついに本格的な練習会を再開した。当日は、4月ころから数回行われた、鼓笛体験会に参加してくれた少年会員が、主なメンバーとして参加。スタッフの熱心な指導を受けていた。楽器に触れて間もなく、まだまだ演奏を披露するには時間がかかりそうだが、この日も子どもたちは一生懸命に練習をし、段々と上達。夕張団鼓笛隊第二章の幕開けを感じさせる機会となった。数年後には、大教会で、そしておぢばで、一手一つの音色を奏で、たくさんの方々に笑顔と元気を与えられる活動になると期待したい。

（記　岩佐）

庶務部

11月

▽おさづけの理拝戴
梶川紗耶香(新生生)　11・26

▽初席
佐藤心元(上富良野)　11・25

▽をびや　2件

▽【詰所当番】12月～2月
梶川創一郎(新生生)

12月

▽初席
渕野　啓　(直轄)　12・4
渕野　成美(直轄)　12・4
大浦　真一(直轄)　12・4
大浦　早苗(直轄)　12・4

▽詰所ひのきしん
梶川　芳史(新生生)　12・3

大教会日誌抄

11月

1日　たすけ推進会議
4日　会長、支部例会、組例会
5日　会長、清真布分巡教
11日　会長夫妻、志加ノ谷分100周年
12日　会長、馬追分巡教
13日　会長、保護司会合
14日　月次祭準備
15日　月次祭　新穀感謝祭
　　秋季霊大祭
18日　こども食堂
19日　会長夫妻、札美分巡教
22日　会長、おぢばへ
24日　会長、本部神殿当番
25日　会長夫人、おぢばへ
26日　本部青年会総会
　　本部月次祭
　　遥拝式
27日　会長、かなめ会
　　会長夫人、本部婦人会例会
28日　会長夫人、帰会
30日　会長、帰会

12月

1日　たすけ推進会議
2日　会長、おぢばへ
4日　会長、別席お世話取り
6日　会長、帰会
10日　会長、北夕分巡教
14日　月次祭準備
15日　月次祭
18日　会長、布教の家育成員会合
19日　会長夫妻、札美分巡教
21日　前会長札幌刑務所教誨師
23日　会長、おぢばへ
24日　会長、本部神殿当番
26日　本部月次祭
　　遥拝式
27日　会長、かなめ会
　　会長、帰会
29日　大教会大掃除、餅つき
31日　元旦祭準備

【ひきよせ662号（11月号）訂正】

・3ページ中段　11行目
誤　2006年の3月から
正　2009年の3月から

・8ページ　大教会日誌抄
誤　6日　会長夫妻、上富良野分巡教
正　2日　会長夫妻、上富良野分巡教

以上、お詫びの上訂正致します